

2022年3月3日

三島村ジオパーク推進連絡協議会
会長 大山 辰夫 様

日本ジオパーク委員会
委員長 中田 節也



第44回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2022年1月28日に行われた第44回日本ジオパーク委員会において、貴地域は再認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

【総評】

新型コロナウイルス感染症の影響やまだ不十分な事務局体制により、当初計画の進捗が遅れているものの、大学との連携、防災体制の構築、教育での取り組み、刊行物の発行、ジオパークに貢献する人材の島内定着などに進展があった。今後は、ジオパークに賛同し参加している島民による、さらなる積極的な活動に期待したい。

一方で、2020年3月策定の三島村・鬼界カルデラジオパークの基本計画には長期的視点が欠けている。すなわち、それぞれの活動内容は具体的ではあるものの個別的であり、それらが統合されてジオパーク全体としてどこに向かっているのかが不明である。10年以上の長期的なビジョン・戦略を作成し、その進捗状況がわかる「達成指標」を設定して、全員で着実に前へ進んでいることを確認し共有できる仕組みを構築することが必要であり、その過程でみんなで大いに議論してほしい。ジオパークを通して解決できる具体的な課題を三島村の戦略の中に位置づけることで、島内事業に参加している関係者と島民の力や知恵をさらに発揮できるものと期待する。

【優れている点】

- ・防災体制の構築：2020年には㈱南日本放送と災害時の情報発信などで連携する防災パートナーシップ協定が結ばれ、2021年には日本郵政㈱と災害発生に備えた包括的な連携協定が結ばれた。また、鹿児島大学と連携して、三島村役場と硫黄島にある観光案内所に防災啓発用のデジタルサイネージの設置が完了し、今後も増設が予定されている。さらに、薩摩硫黄島岳噴火時等の避難確保計画が策定予定であり、民宿ごとの避難経路、避難方法が記載された宿泊者向けの資料は今年度に完成予定である。島民だけでなく、来島者にも防災情報が届けられるような工夫が見られる。
- ・教育での取り組み：教育委員会の強いサポートのもと、島内すべての学校において「地球科」（ジオ科）の授業がカリキュラムに取り入れられており、地球を学び、未来を自分の手で創造できる人材を育てている。また、情報通信技術（ICT）を活用した教育活動は離島の環境に適しており高く評価できる。
- ・大学との連携：九州大学大学院理学研究院、神戸大学海洋底探査センター、鹿児島大学産学地域共創センターの各研究機関との連携協定が締結されたことは大きな進展であり、今後の発展が期待できる。
- ・刊行物の発行：毎年継続的に出版されている「ジオパークカレンダー」は村内全世帯に配布され、さらに希望者にも100部提供されており、住民のジオパーク認知度向上に貢献している。これは、文化遺産や無形遺産も含めた内容となっており、今後、コンテンツが蓄積されさらに幅広く活用されるよう期待したい。

【今後の課題・改善すべき点】

I 緊急に着手しないし解決すべき課題（おおむね1年以内）

1. **事務局体制の強化**：事業を円滑に実施できるように専門員の更なる雇用や事務局内の他の職員（時間割り5%）への業務割り振りなど、事務局体制が強化できる改善策を検討してほしい。また、基本計画で定められているアクション別の目的と指標を定め、進捗状況を客観的に計れるPDCAサイクルを実施し、それを共有することが望ましい。
2. **地域住民の参加**：ジオパークを理解し地域を通して地球のサステナビリティを真剣に考えている貴重な地域住民が存在するにもかかわらず、関係者が集まってジオパークの取り組みや今後の発展について語り合う場が不足している。事務局が鹿児島市にあるという距離的ハンディもあるが、広い範囲で意見の収集ができるよう、事務局と地域住民のコミュニケーションの場を設定することが必要である。また、企画段階で女性の参加をどのように増やせるかも検討してほしい。

II できるだけ早く解決すべき課題（おおむね2年以内）

3. **ストーリー**：地域の植生に焦点をあてたハマギプロジェクトの盛り上がりや、大学の考古学研究により新たな発見を地域住民と喜び合うなど、教育活動の気運は高まりつつあるものの、ジオパークならではの大地と文化を関連付けたストーリーが欠けている。研究結果を地元住民にわかりやすく解説したジオストーリーを考える必要がある。学術的な事象をわかりやすく説明できる職員を事務局に置くことで、事務局体制が強化され、大学や研究機関等の協力者と地域住民やガイドとのコミュニケーションが改善されるので、令和4年度採用予定の地質地形専門員の役割にも期待したい。
4. **ガイド内容**：海域でのカルデラ中央部での学術的成果なども含め、最新の学術的成果を咀嚼し、新たなコンテンツとしてガイドが分かりやすく伝えられるよう、また小学生も理解できるように工夫してほしい。

III 解決すべき課題

5. **長期計画の作成**：協議会が推進している取り組みが具体的にどの様に持続可能な開発目標の達成につながっていくか、整理をする必要がある。また、取り組みの中心になっている「人口の増加」の達成可能性やそれに貢献している事業について検討が必要。さらに、ジオパークの発展には時間がかかるので、住民とも十分に検討して、より長期のビジョンと計画を策定し、それに沿って全員で着実に前へ進んでいることを確認し共有できる仕組みを構築してほしい。
6. **防災**：ハザードマップは防災訓練ツールとしても重要である。引き続き全島をカバーするマップの整備を進めてほしい。また、ハザードマップを用いた防災訓練を実施し、ジオパーク活動の理解促進にも活用してほしい。今後、硫黄岳の観光利用が行われることも想定し、その防災方針などを整備し公開してほしい。そして、過去10,000年間で地球上最大級の噴火活動の痕跡があるジオパークとして、火山防災に役立つ内容を世界に発信してほしい。
7. **施設**：ジオパーク資料館の展示内容は科学的に正確であることに重点が置かれているが、ふるさと学習の場として利用されているので、小中学生でも分かるような展示内容に工夫するのが好ましい。また、地域資源の全体像や地質・地形が歴史文化や動植物にどのような影響を与えてきたかを学べる施設としての改善を検討してほしい。
8. **デジタル**：来島者全員が利用するフェリーみしまの船内に、ジオパークを訪れていることがわかるように表示や案内を工夫してほしい。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4年後の再審査の際の審査対象とします。

以上